



最後は、笑って  
帰ってほしい



与謝野町保健課長

前田昌一 氏

課長補佐として保健課に異動してから9年目になる。旧岩滝町役場では国保全般を一人で担当していたといい、4年前に保険者事務担当職員として本会理事長表彰を受けている。

### もう一度教えてくれる…

「岩滝町時代を含め保健師と同じ課にいたんですが、国保など『保険』が主な仕事でしたので、お恥ずかしい話ですが、課長になった時は、『保健』のほうは専門用語などが多くて保健師らが何をやっていいのかもよく分からなかったんです」と打ち明けてくれた。「最近は必要に迫られiPadを使ってデータを整理しています。でも、いろんな保健事業などをやっていますので、どの事業が健康増進なのか介護予防なのか分からなくなり、しょっちゅう担当職員に『もう一度教えて』と言いながら聞いています」。飾らない話し方に誠実な人柄を感じた。

特定健診の受診率や特定保健指導実施率はともに府内市町村では上位だ。「しかし、生活習慣病が原因とされる高血圧や脂質異常症、脳梗塞といった疾病が府平均よりも高いんです」。原因の一つとして、車利用が多くて日常生活の中で「歩く」機会が少ない

ことを指摘する。「私自身も含め、車の利便さ、楽さを、体が覚えてしまったからなんでしょうかね」

町のケーブルテレビを利用して、保健師らが特定健診のCMを制作し受診勧奨を呼びかけるなどユニークな取り組みを進めている。「昨年のCMでは保健



師と一緒に出演しました。せりふはなく、保健師の後ろで自転車型トレーニング器具をこいでいました」と笑った。

### 小中学生にテニスを指導

中学時代からソフトテニス(軟式テニス)を始め、高校の時にはインターハイに出場したスポーツマンだ。町教委のジュニアスポーツの一つとして、6年前から毎週水曜日の夕方から小中学生にソフトテニスを教えている。土曜日には母校の中学校で部外コ

ーチも務める。

「わが子(男の大学生と高校生)はしゃべってもくれませんが、小中学生はみんな素直で学校であったことなどいろんなことを教えてくれます。からかいながら彼(彼女)らとしゃべっていると、本当に楽しいですね。うれしそうな笑顔がはじけた。

「言いくいのですが、たばこを吸うんです。嫁にも保健師にも禁煙するように言われているんですが、ソフトテニスの子どもたちに『おっちゃん、たばこはあかんで。学校の防煙教室でがんになると習った』と言われるのが一番こたえます。こちらは苦笑いだ。

業務が多岐にわたるうえ、住民に一番身近な窓口である。「怒ってこられる住民さんもしかにおられます。本人さんの話をよく聞いたうえで、一つ一つ丁寧に説明し、最後は、笑って帰っていただけのような対応を心掛けたいです」。愚直な言葉が素敵だった。

